

記念講演 I

ワークライフバランスからワークアズライフへ

落合陽一

ピクシーダストテクノロジーズ株式会社 代表取締役社長

デジタルネイチャー推進戦略研究基盤 基盤長

筑波大学 図書館情報メディア系 准教授

目次

1. はじめに
2. テクノロジーと社会問題
3. 後れを取る日本の産業競争力
4. ワークアズライフ

1. はじめに

私は研究をしているか、事業を興しているか、アートをしているかの人間である。今期から日本テレビのnews zeroでコメンテーターも務めている。本日もそうであるが、下駄を履いてテレビに出演したことでお叱りを受けた。ものを作る人間なのだから外見は重要ではないと思うのだが、そのようには思われたいようだ。

私が何者かを知ってもらうため、私のアート作品を紹介する(図表1)。これは空に浮いた彫刻作品である。空中にあるものをバランスするにはコンピューター制御なしにはできず、彫刻作品が安定的に浮くには3Dプリンターが必要だ。二つの要素を利用した作品をよく制作している。

学部時代はメディアアートに興味があった。その後東京大学大学院でプログラムを専攻し、空中にプラズマで映像を描く技術を開発した。会社を起業してからは超音波を使って空間のある一点で音が鳴るスピーカーなどの技術を開発した。

その後はホログラムの研究に従事している。立



図表1



体映像の印象の強いホログラムは基礎的な分野である。光が干渉してできた波をどのようにコンビ